Color Science Association of Japan

第11回日本色彩学会賞

色彩の応用的研究と日本色彩学会における諸活動

Applied Color Researches and Practice, Activity and Management in The CSAJ

神作　博　　名誉会員／中京大学名誉教授
Hiroshi Kansaku　　Honorary Member of The CSAJ／Honorary Professor of Chukyo University

この度日本色彩学会賞を授与され、光栄に存じております。この受賞は直接的には所属支部である東海支部の高橋晋也支部長(名古屋大学)はじめ支部役員、支部会員の皆々様のご推挙の賜物であり、東海支部を代表しての不肖私が支部初めての受賞の栄に浴したのであると思っております。

また、この受賞に関してご尽力くださった審査委員長の太田安雄先生はじめ委員の各先生方、当学会会長の富永昌治先生はじめ役員の皆様にも深甚の謝意を表させて頂きます。

1　色彩研究のスタートと色彩科学協会への入会

学生時代より色彩に関心をもち、卒業論文実験の必要上、長期の休みを利用して日本色彩研究所へ出入りし、同所の先生方よりご指導を受けていたが、就職に際し、国家公務員試験との関連で宇宙医学の研究機関に就き、大島正光先生の直接のご指導を受けることとなった。当時、大島先生は日本工業規格(JIS)の安全色彩の研究を完遂された直後であり、以後、安全色彩の研究を継承することとなった。昭和33年2月日本色彩学会の前身である色彩科学協会に入会、色彩の工学・光学的なご指導は川上元郎先生より受けつつ、飛行場標識の色彩の研究、空中衝突防止のための航空標識の色彩研究などに従事した。

2　色彩科学協会・日本色彩学会における活動

大島先生が関東支部長時代に関東支部庶務幹事として会務を遂行した。この間、大島先生の代理としてJISの色彩関係の制定に参加した。昭和43年中京大学へ転職、当時、当学会の会長であった大島先生の指示で東海支部設立担当理事として東海支部の設立に関係、当時東海地方にて活動中の東海色彩懇談会の諸先生方のご理解・ご協力を得つつ、東海支部の歴史が始まった(このあたりの事情は大竹昌幸監事のご尽力で東海カラーアーカイブスの活動の一環として東海支部の歴史に記録、会員の皆様の便に供する予定である)。

当学会副会長・東海支部長時代、会長時代を経て第8回AICの日本開催の準備の責を負った。幸いにして納谷嘉信組織委員長の大変なご尽力、小町谷朝生委員はじめ多数の方々の陰のご努力があり池田光男大会委員長のリーダーシップのもと実行委員各位のご尽力、秋田宗平学会会長(当時)のご活躍により、AIC京都大会は盛会裡に開催され、思い出に残ることとなった。いっぽう、同年に名古屋でルクスパシフィカ(環太平洋照明会議)が開催され、照明学会東海支部長として実行委員会を主宰、沖允人先生(当学会員、前照明学会東京支部長)のご理解とご努力によって、照明・色彩の連携もはかられたと考えている。

色彩の問題は人間行動全般と深い関わり合いを有している。照明学会以外にも日本人間工学会、日本応用心理学会、産業組織心理学会、日本交通心理学会、東海心理学会等のメンバーとも可能な限り、相互理解、連携をはかるよう、微力を捧げた。

3　応用色彩研究ー特に色彩の誘目性の研究ー

航空標識の色彩の研究の進展の途上で高速道路の標識の色彩の問題が発生し、これを機に従来の色彩の機能面を筆者なりに分類・整理し、視認性、誘目性、可読性の名のもとに諸研究の見直しを行った。それに伴い、色彩の目立ちに関する実験データがほとんど存在しないことに気付き誘目性という名を付し、方法論の検討から始め、その基礎的研究を遂行、同時に、歩行・自動車走行・航空機飛行などを絡み合わせ、現実場面での実験データの積み上げを行った。この種の人間行動を伴った諸研究を「応用行動色彩学」と勝手に自称している。

(私のこれまでの研究や活動について、紙面の都合によりここでお名前を挙げられなかった多くの方々のご指導・ご支援を得た。非礼をお詫びし、深甚の謝意を表する次第です。)

NII-Electronic Library Service